

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

1. 名称 (他のプログラムと容易に区別できること)
ふじさわ地域包括ケア・家庭医療後期研修プログラム

2. プログラム責任者			
氏名	佐藤 元美	指導医認定番号	第 2012-367 号
所属・役職	一関市国民健康保険藤沢病院 病院事業管理者		
所在地・連絡先	住所 〒 029-3405 岩手県一関市藤沢町藤沢字町裏 52 番地 2 電話 0191-63-5211 FAX 0191-63-5484 E-mail motomi@echna.ne.jp		
連絡担当者氏名*・役職	吉田 浩和 (事務局長)	* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載	
連絡先*	電話 0191-63-5211 FAX 0191-63-5484 E-mail yoshida@city.ichinoseki.iwate.jp		

3. 後期研修医定員
1 年あたり ( 1 ) 名 ( × 研修期間年数 = 総定員 3 名 )
※総合診療専門研修 I および II において、常勤の要綱 28 条に定める認定指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医 3 名に対して 1 名以上配置できる人数に留めること。

4. プログラムの期間
( 3 ) 年間

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

5. 概要

後期研修医の皆さんへ ～一関市国保藤沢病院が目指す地域医療・地域包括ケアとは～

一関市国民健康保険藤沢病院は、旧藤沢町が平成 5 年 7 月に国民健康保険藤沢町民病院として開院した病院である。当初より保健・医療・福祉・介護の連携による地域包括ケアを実践してきた。平成 23 年 9 月に旧藤沢町は一関市と合併したが、一関市病院事業として現在もその理念やケアシステムは引き継がれている。当事業は、藤沢病院を核にして、介護サービス事業（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・認知症グループホーム・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・包括支援センター）を経営統合し、先進的な地域包括ケアシステムを構築している。当院の特徴は、

- ・ 内科は総合診療方式を採用し、小児科を包含した総合診療科として機能している。
- ・ 健康増進外来、もの忘れ相談外来、禁煙外来などの専門外来も開設し、予防医学的側面からも地域住民の健康増進に大きく寄与している。
- ・ 自治医科大学や岩手医科大学をはじめ、これまで数多くの医学生や研修医を全国各地から積極的に受け入れている。
- ・ 年 1 回、当院職員が地域に出向いて住民と意見交換を行う場である「地域ナイトスクール」を各地域で開催している。
- ・ 当院と地域、行政とが協働して「これからの若い医師を育てよう」という主旨で、地域住民の参加のもと「保健・医療・福祉意見交換会」において、臨床研修医と地域住民の交流による人材育成を行ってきた。
- ・ 全国の医学生を主たる対象として、「藤沢地域医療セミナー」を藤沢野焼祭りと合わせて毎年 8 月に開催し、藤沢ならではの魅力、地域医療の魅力を体験できる機会を全国に発信してきた。

当院の後期研修プログラムは、これらの特徴を生かして地域住民との交流を重視している。日々の研修の中で、地域医療・地域包括ケアの魅力や醍醐味を実感しながらも、患者や地域住民のニーズに合った全人的かつ包括的な医療・ケアを実践でき、しっかりと家庭医療や地域包括ケア、総合診療について学べる機会を十二分に提供させていただきたいと考えている。

モデルとなるローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合診療専門研修 I									外科	皮膚科	整形外科
2年目	内科（必須）			救急科（必須）			内科（必須）			小児科（必須）		
3年目	精神科	泌尿器科	産婦人科	総合診療専門研修 II								

プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療専門研修	総合診療専門研修 I ( 9 ) カ月		総合診療専門研修 II ( 9 ) カ月	
領域別研修	内科 ( 6 ) カ月	小児科 ( 3 ) カ月	救急科 ( 3 ) カ月	その他 ( 6 ) カ月

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I		
研修施設名 1	一関市国民健康保険藤沢病院	診療科名 ( )
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	病院病床数 ( 54 ) 床 診療科病床数 ( ) 床
総合診療専門研修 I における研修期間		( 6 ) カ月
研修期間の分割		<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	佐藤 元美	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 認定番号 : 第 2012-367 号 ) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 ( 認定番号 : ) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 ( 認定番号 : ) <input type="checkbox"/> 無	
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように ))		
<b>ケアの内容</b>		
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加		
<b>施設要件</b>		
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) ( 学童期 2%、後期高齢者 54%程度であるが、藤沢地域に唯一の医科医療機関として、学童期以下の患者にも原則対応している。学童期の患者の症例は、気管支炎・気管支喘息等の呼吸器疾患が 37%、胃腸炎等の感染症が 11%、発熱等その他の症候が 7%、そのほか皮膚、関節の疾患などである。 )		
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 ( 藤沢地域に唯一の医科医療機関として一次救急の全てに対応しているほか、二次救急輪番制病院にも参加している。在宅患者は、訪問看護ステーションと連携して 24 時間対応可能な在宅療養支援病院である。 )		
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 ( 緩やかなグループ主治医制により急変時などの対応をスムーズにしているほか、担当医毎の予約再診により継続的な関わりをもち、在宅患者では担当医が看取りまでのプロセスに主体的に関わっている。 )		
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 ( 総合診療方式の内科で広範囲な疾患に対応、終末期の緩和ケアを含む在宅医療、糖尿病を対象とした健康増進外来及び禁煙外来、更に併設介護施設や知的障害者施設の医療、予防接種や健診などを担っている。 )		
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 ( 二次医療圏の中核病院と日常的に紹介・逆紹介を行っているほか、三次医療機関である岩手医大や岩手県立中央病院、東北大学病院等への紹介もスムーズである。7つの介護事業を併設して一体的に運営しており、保健福祉分野とも連携している。 )		
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 ( 地域に唯一の医科医療機関としてかかりつけ医の機能を果たし、ほとんどの住民のカルテ登録がある。電子カルテの関連付けにより家族の病歴把握も容易である。 )		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 ( 一関市保健センターにおいて健康いちのせき 21 を学び、年間を通して健康づくり政策に関わりを持つことができる。 )		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。  
具体的な体制と方略  
（ 約 120 件の訪問診療を担当し、在宅療養支援病院として訪問看護との連携のもと 24 時間の相談、往診対応を行っている。年間 10 件程度の在宅看取りも行っている。 ）

週当たり研修日数：（ 5 ）日

総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数

内容	
日数	日/週

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名 1	一関市国民健康保険藤沢病院	診療科名（ 内科 ）
施設情報	病院病床数（ 54 ）床	診療科病床数（ 科別区分なし ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 9 ）カ月	
研修期間の分割	■なし □あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	佐藤 元美	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有（認定番号：第 2012-367 号） □無	
指導医氏名 2		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有（認定番号： ） □無	
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有（認定番号： ） □無	
常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		
<b>ケアの内容</b>		
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
<b>施設要件</b>		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療：以下の全てを行っていること		
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（ 入院及び外来患者の約 7 割は 65 歳以上の高齢者であり、介護を要する虚弱高齢者が多く、毎月 50 件程度の主治医意見書を作成、包括支援センターや訪問看護ステーションなどと連携して生活を支える医療に取り組んでいる。 ）		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ 当院の内科は、総合診療方式でかかりつけ医としての役割を担っており、UCG を含むエコー、内視鏡、64 列 CT、1.5TMR1 などによる高い診断能を有することで、複雑な健康問題に対応し、専門医への紹介も的確にできる。 ）		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（ 県立磐井病院を中心に、泌尿器科、消化器科、循環器科などの専門医と連携しており、2 次医療圏に構築されている画像情報ネットワークを利用して医療連携がスムーズに行える。 ）		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（ 自治医科大学附属病院精神科医師による診療のほか、毎週行う他職種のミーティングで検討している。 ）</p>				
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ 医師、看護師、薬剤師が連携して緩和ケアを実施する体制としている。 ）</p>				
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ 併設の包括支援センター、訪問看護ステーション、老健などの介護事業部門と連携し、退院前カンファレンスを実施するなどによって、ワンストップで各種サービスの提供までを行う。 ）</p>				
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 （ 約 120 人の訪問診療を担当しており、緊急時には常に入院の受け入れが可能である。また、訪問看護部門や連携する訪問介護事業者からの情報提供により、急変時の受診から入院受け入れまでがスムーズに行える。 ） 外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>				
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 全ての時間帯において救急患者の受け入れを行っている。初診患者についても診療時間内のどの時間帯でも対応している。 ）</p>				
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 総合診療方式の内科で臓器別ではない診療している。内科の初診は、月 170 名程度。 ）</p>				
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 外来患者の 7 割程度が高齢者であり、高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が多く、COPD や老年期の精神疾患、認知症も多い。 ）</p>				
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ 富山大学が主催する多地点 WEB カンファレンスに参加して、臨床推論や EBM の観点からも検討している。 ）</p>				
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 院内他科との連携のほか、2 次医療圏の専門医への電話と画像ネットワークを利用したコンサルテーション等により包括的なケアを提供している。 ）</p>				
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 診断が困難な症例は、自科、他科問わずその都度速やかに検討されており、専門医への受診が必要かどうかの判断が迅速にできる。 ）</p>				
<p>週当たり研修日数：（ 5 ）日</p>				
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>				
<table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日数</td> <td>日/週</td> </tr> </table>	内容		日数	日/週
内容				
日数	日/週			

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載すること。

<b>6-3. 領域別研修：内科</b>	
研修施設名 1	岩手県立磐井病院
診療科名	（ 消化器科、呼吸器科、循環器科 ）
病院病床数	（ 315 ）床
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月
指導医氏名 1	中村 紳
臨床経験年数	（ 27 ）年
有する認定医・専門医資格	日本内科学会認定医・専門医、日本循環器学会専門医
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<b>ケアの内容</b>	
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。	
<b>施設要件</b>	
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。	
■内科病床数が 50 床以上ある。	( 74 ) 床
■内科常勤医が 5 名以上いる。	( 7 ) 名
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 ( 7 ) 名	
週当たり研修日数：( 5 ) 日	
領域別研修（内科）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	
日数	日/週

※研修施設が 3 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載すること。

<b>6-4. 領域別研修：小児科</b>			
研修施設名 1	岩手県立磐井病院	診療科名 ( 小児科 )	
病院病床数	( 315 ) 床	診療科病床数 ( 16 ) 床	
領域別研修（小児科）における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名 1	丸山 秀和		
臨床経験年数	( 16 ) 年		
有する専門医資格	日本小児科学会認定医・専門医		
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1 次救急を中心に経験する。			
□病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。	( 2 ) 名		
週当たり研修日数：( 5 ) 日			
領域別研修（小児科）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が 3 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載すること。

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名 1	岩手県立磐井病院		
病院病床数	( 315 ) 床	年間救急搬送件数	( 2,751 ) 件
指導医氏名 1	片山 貴晶		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			



受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	週あたり 研修日数 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	一関市国民健康保険藤沢病院	椎名 良直
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	岩手県立千厩病院	佐藤 一
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	一関市国民健康保険藤沢病院	高橋 幸洋
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	岩手県立南光病院	土屋 輝夫
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	一関病院	柳澤 瑛 加賀 敬子
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	すがわら皮膚科クリニック	菅原 祐樹
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	岩手県立千厩病院	大澤 泰介
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	岩手県立胆沢病院	玉田 邦房
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	気仙沼市立病院	今留 尚人
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	岩手県立胆沢病院	中田 吉彦
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	一関市国民健康保険藤沢病院	鈴木かおり
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	一関市国民健康保険藤沢病院	佐藤 元美 椎名 良直
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	一関市国民健康保険藤沢病院	各指導医
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 2 ) 日	( 1 ) カ月	老健ふじさわ	施設長
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日	( ) カ月		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）

- 1) 後期研修医は、研修の中間報告を「藤沢地域医療セミナー」（年1回）及び「地域ナイトスクール」（年1回／各地域）で行うほか、最終的に総括的な研修報告を「保健・医療・福祉意見交換会」（1回）において行う。いずれにしても、患者や地域住民、研修施設スタッフなどからの声を研修医にフィードバックする。
- 2) 各指導医は、各研修修了時に、別に定めるチェックリストを用いて、研修医の到達目標達成度を客観的に評価し、研修成果が修了レベルに達していれば修了認定を行う。その際に、患者や地域住民、研修施設スタッフによる意見も十分参考にする。研修医自身も、各研修修了時及びプログラム修了時に自己評価を行う。
- 3) 後期研修医は、研修成果の記録であり、かつ、家庭医療専門医試験を受験するためにも必要となるポートフォリオの作成、ならびに、特に内科認定医をあわせて目指す者については提出を要する症例報告の作成を随時行い、その都度、指導医の評価を受ける。指導医は、研修医の求めに応じて適宜指導を行い、月1回程度、各研修施設等でその発表の機会を設ける。
- 4) 後期研修医は、臨床研究の成果発表や自身が体験した症例報告など、3年間のうちで少なくとも1回以上は、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会での発表を行う。
- 5) 後期研修医は、家庭医療や総合診療、プライマリ・ケア、地域包括ケアなどに関連する研究会や講習会での聴講や議論に積極的に参加する。（この自主的な積極性については、最終的な修了認定にも加味されるものとする。）
- 6) 後期研修医は、院内外の症例検討会やWEBカンファレンスにも積極的に参加する。（これについても、最終的な修了認定における評価項目とする。）
- 7) 最終的な修了認定は、各指導医による評価を総合的に勘案し、さらに、後期研修医と研修期間中に定期的に数回の面接を行ったうえで、プログラム責任者が行う。なお、後期研修医が研修修了のレベルに達していない場合や、後期研修医本人からの要望があれば、研修期間延長も検討するものとする。

8. プログラムの質の向上・維持の方法

- 1) 定期的に研修委員会を開催し、研修医本人からの意見や要望、研修状況を聞いて確認し、あわせて、各々の指導医や研修施設スタッフからの意見や問題点などを集約し、それらを総合的に検討したうえで、その都度、プログラムの改善を図る。
- 2) 指導医自身のレベルアップを図るため、指導医それぞれの専門領域の修練に励むのと同時に、学会指導医の資格を取得し、家庭医療後期研修プログラムに携わる指導医としての研鑽にも励むよう努める。
- 3) 各研修期間が修了した際、および、プログラム全体が修了した際には、研修医からこの家庭医療後期研修プログラムおよび各指導医に対するアンケートやチェックリスト等による評価を行ってもらい、プログラム責任者および各指導医はその結果を真摯に受け止め、次なる後期研修医の指導に生かす。

黄色欄に記載の上、ご提出ください。

家庭医療専門医研修プログラムVer2.0 研修目標及び研修の場		プログラムでの研修設定 ◎:主たる研修の場 ○:従たる研修の場 学会推奨 ◎:主たる研修の場、○:研修可能な場											
プログラム名:	総合診療専門研修Ⅰ (診療所/小病院)	総合診療専門研修Ⅱ (病院総合診療部門)	内科		小児科		救急科		他の領域別研修				
Ⅰ. 一般的な症候への適切な対応と問題解決 以下に示す症候すべてにおいて、臨床推論に基づく鑑別診断および、初期対応 (他の専門医へのコンサルテーションを含む)を適切に実施できる。	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	設定	学会推奨	
ショック	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
急性中毒	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
意識障害	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
全身倦怠感	◎	◎	◎	◎	○	○							
心臓停止	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
呼吸困難	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
身体機能の低下	◎	◎	◎	◎	○	○							
不眠	◎	◎	◎	◎	○	○							
食欲不振	◎	◎	◎	◎	○	○							
体重減少・るいそう	◎	◎	◎	◎	○	○							
体重増加・肥満	◎	◎	◎	◎	○	○							
浮腫	◎	◎	◎	◎	○	○							
リンパ節腫脹	◎	◎	◎	◎	○	○							
発疹	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○	◎	○	
黄疸	○	○	○	○	◎	◎							
発熱	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
認知能の障害	◎	◎	◎	◎	○	○							
頭痛	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎			
めまい	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎			
失神	○	○	○	○	○	○							
言語障害	◎	◎	◎	◎	○	○							
けいれん発作	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎			
視力障害・視野狭窄	○	○	○	○	○	○			○	○	◎	○	
目の充血	◎	◎	◎	◎			○	○			◎	○	
聴力障害・耳痛	◎	◎	◎	◎			○	○			◎	○	
鼻漏・鼻閉	◎	◎	◎	◎			○	○			◎	○	
鼻出血	◎	◎	◎	◎							◎	○	
さ声	◎	◎	◎	◎							○	○	
胸痛	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎			
動悸	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎			
咳・痰	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎			
咽頭痛	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎			
誤嚥	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		○	
誤飲	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		○	
嚥下困難	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		○	
吐血・下血	○	○	○	○	○	○			◎	◎			
嘔気・嘔吐	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎			
胸やけ	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○			
腹痛	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎			
便秘異常	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○					
肛門・会陰部痛	◎	◎	◎	◎	○	○							
熱傷	◎	◎	◎	◎							○	○	
外傷	◎	◎	◎	◎							◎	◎	
褥瘡	◎	◎	◎	◎								◎	
背部痛	◎	◎	◎	◎								◎	
腰痛	◎	◎	◎	◎								◎	
関節痛	◎	◎	◎	◎								◎	
歩行障害	◎	◎	◎	◎								◎	
四肢のしびれ	◎	◎	◎	◎								◎	
肉眼的血尿	◎	◎	◎	◎							○	○	
排尿障害(尿失禁・排尿困難)	◎	◎	◎	◎							○	○	
乏尿・尿閉	◎	◎	◎	◎					○	○	◎	○	
多尿	◎	◎	◎	◎							○	○	
精神科領域の救急	○	○	○	○					◎	◎		◎	
不安	◎	◎	◎	◎							◎	◎	
気分の障害(うつ)	◎	◎	◎	◎							◎	◎	
流・早産及び満期産	◎	◎	◎	◎							◎	◎	
女性特有の訴え・症状	○	○									◎	○	
成長・発達障害	○	○					◎	◎					
<b>Ⅱ 一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント</b> 以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントができる。また、( )内は主たる疾患であるが、例示である。 ※印の疾患・病態群は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。													
<b>(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患</b>													
※[1]貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○					
[2]白血病	○	○			◎	◎							
[3]悪性リンパ腫	○	○			◎	◎							
[4]出血傾向・紫斑病	○	○	○	○	◎	◎			○	○			
<b>(2) 神経系疾患</b>													
※[1]脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)	○	○	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	
※[2]脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)	○	○			◎	◎			◎	◎	◎	◎	
※[3]変性疾患(パーキンソン病)	◎	◎	○	○	◎	◎							
※[4]脳炎・髄膜炎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎			
※[5]一次性頭痛(偏頭痛、緊張性頭痛、群発頭痛)	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○					
<b>(3) 皮膚系疾患</b>													
※[1]湿疹・皮膚炎群(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮脂欠乏性皮膚炎)	◎	◎	○	○			◎	◎			◎	◎	
※[2]蕁麻疹	◎	◎					◎	◎	○	○	○	◎	
※[3]葉疹	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	
※[4]皮膚感染症(伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、白癬症、カンジダ症、尋常性ざ瘡、感染性粉瘤、伝染性軟属腫、疥癬)	◎	◎	○	○			◎	◎			◎	◎	
<b>(4) 運動器(筋骨格)系疾患</b>													
※[1]骨折(脊椎圧迫骨折、大腿骨頭部骨折、橈骨骨折)	◎	○							◎	◎		◎	
※[2]関節・靭帯の損傷及び障害(変形性関節症、捻挫、肘内障、腱板炎)	◎	◎							◎	◎		◎	
※[3]骨粗鬆症	◎	◎	○	○	○	○						◎	
※[4]脊柱障害(腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症)	◎	◎									○	◎	
<b>(5) 循環器系疾患</b>													
※[1]心不全	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◎	
※[2]狭心症、心筋梗塞	◎	◎	○	○	◎	◎					◎	◎	
[3]心筋症	○	○			○	○	○	○	○	○			
※[4]不整脈(心房細動、心房ブロック)	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎			
[5]弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)	○	○			◎	◎			○	○			
※[6]動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
※[7]静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)	◎	◎	◎	◎	◎	◎							



黄色欄に記載の上、ご提出ください。

家庭医療専門医研修プログラムVer2.0 研修目標及び研修の場		プログラムでの研修設定 ◎:主たる研修の場 ○:従たる研修の場 学会推奨 ◎:主たる研修の場、○:研修可能な場									
プログラム名:	総合診療専門研修 I (診療所/小病院)	総合診療専門研修 II (病院総合診療部門)	内科		小児科		救急科		他の領域別研修		
※[1]維持治療期の悪性腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎	◎
※[2]緩和ケア	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
III 多様な診療の場に基づく医療 以下に示す診療を適切に実施することができる。											
(1) 在宅医療											
在宅導入	◎	◎	◎	◎							
定期訪問診療	◎	◎	◎	◎							
臨時往診	◎	◎	◎	◎							
在宅看取り	◎	◎	◎	○							
(2) 地域包括ケア											
地域ケア会議 (サービス担当者会議等)	◎	◎	◎	○							
(3) 保健予防活動											
各種ワクチンブракティス (小児～成人まで幅広いワクチン接種計画と実施)	◎	◎	◎	○			◎				
各種スクリーニングと健康診断 (健康診断と結果説明の実施)	◎	◎	◎	◎							
学校医活動	◎	◎					◎				
(4) 保健福祉施設へのメディカルサービス											
施設入居者の診療	◎	◎	◎	○							
IV プライマリ・ケアの価値観に基づくジェネラリストアプローチ 以下に示すケアや活動を適切に提供・実践することができる。											
(1) 生物心理社会アプローチ											
患者中心の医療の方法などを用いながら、チームでアプローチし問題解決あるいは安定化をはかった複雑事例など	◎	◎	◎	◎							
(2) 家族志向型ケア											
家族カンファレンスを実施した事例など	◎	◎	◎	◎							
(3) 地域志向型ケア											
地域の特定の健康問題の解決に向けたプロジェクトの実施事例など	◎	◎									
(4) 医師患者関係と継続ケア											
継続的に診療することにより患者医師関係を強化し、なんらかの行動変容をもたらした事例など	◎	◎	◎	○							
(5) EBM											
生涯学習スキルとして、日常診療の疑問をEBMの手法をもちいて解決した事例など	◎	◎	◎	◎							
(6) プライマリ・ケア教育活動											
プライマリ・ケアの現場において学生、研修医、医師以外の医療者に対してなんらかの教育活動を行った事例など	◎	◎	◎	◎							
(7) プライマリ・ケア研究活動											
プライマリ・ケア関連の学会、研究会における発表等	◎	◎	◎	◎							